

議会広報編集委員会行政調査報告書

平成30年11月7日（水）～8日（木）まで、議会広報編集委員会の行政視察のため、長野県飯綱町及び佐久市に出張しましたが、その内容について下記のとおり報告いたします。

平成30年11月27日

喜多方市議会
議長 佐藤 一栄 様

議会広報編集委員会
委員長 上野 利一郎

記

1 日時及び場所

- | | | | | | |
|-----|---------------|-------|--------|--------|-------|
| (1) | 平成30年11月7日（水） | 13:30 | ～15:30 | 長野県飯綱町 | |
| (2) | 〃 | 8日（木） | 13:00 | ～15:00 | 〃 佐久市 |

2 行政視察出席者

上野 利一郎	委員長	小島 雄一	副委員長
遠藤 吉正	委員	後藤 誠司	委員
渡部 勇一	委員	佐藤 忠孝	委員
		随員（書記）	富田 亜紀子

3 行政視察内容

- (1) 長野県飯綱町
 - ①議会モニター制度について
 - ②政策サポーター制度について
- (2) 長野県佐久市
 - ①議会広報の紙面づくりについて
 - ②電子ブックの導入について

以上、報告いたします。

【長野県飯綱町】

1 視察日時及び場所

(1)日時 平成30年11月7日(水) 午後1時30分～午後3時30分

(2)場所 飯綱町役場 議場

2 応対者

飯綱町議会議長 清水 満 氏

〃 議員 議会報編集調査特別委員会 副委員長 瀧野 良枝 氏

3 視察内容(要点筆記)

- (1)議会モニター制度について } レジюмеに沿って説明。
(2)政策サポーター制度について }

(説明：議長 清水 満 氏、議会報編集調査特別委員会副委員長 瀧野 良枝 氏)
議会改革の始まりは、合併後の3セクの破たんがきっかけで、当初、市への批判だったものが、「議会は何をしていたのか」と議会への責任追及に波及し、当時の議長が議会全体の問題として勉強会を重ね今に至る。

飯綱町の議会基本条例は他自治体と比較しても全くの自前で、決まりきった文言の条例とは異なる。議員が年間活動計画を作成し、自己評価までを行う。

議会において、検討するという答弁については、必ず検討結果を求め、国への要望書についても、その結果を回答させるなど、町民に分かりやすい議会運営を心がけている。議会は全会一致が原則で進めている。

喜多方市の議会だよりはどのくらい読まれているのか、把握はしているか。(上野委員長より、昨年度末にアンケートのサンプル調査を行い、約5割の方が目を通してしていると回答。)

議会だよりは読んでくれる方が1割いればいい方と思っていたが、喜多方市でそれだけの人に手に取ってもらえている事には感心した。住民に読んでもらえなければ、ただの自己満足であり、それでは意味がない。

議会モニターを50人にしたのは、読んでくれる人を増やすためである。議員の苦労がわかる方を増やすためであった。

モニターからの意見は、大きく「議会報に対する要望」「議会に対する要望」「市政に対する要望」に分かれる。モニターからの意見への返答は、議会報に掲載し、間違った認識は訂正をし、できることは「やる」と掲載する。モニターへは議員から手渡し、年に4回「ズクを出す」と、いい方向に向くと思っている。

議会の苦労を理解していただければ、モニターからの意見も苦情だけではなくなり、応援していただけるようになる。議会モニターと言いつつ、議員のサポーターでもある。謝礼は2千円の商品券。課題としては、議員の実名を出した批判がたまにあることであるが、そのような意見も包み隠さず市民に伝えている。いつも見られている状況の中で、信頼関係を築いている。

議会だより編集方針は作成していないが、委員の共通認識として「わかりやすく」である。喜多方市の市議会だよりでも住民の顔が見える紙面づくりとなって

いるが、こちらでも住民登場をなるべく多くしている。最近好評なのは、高校生など若手の登場である。

月刊「地方議会人」の市町村議会報クリニックに掲載依頼し、指摘されたことは改善してきたが、その後も再度、先生に見てもらい表紙の目次の改善など行っている。内容についてもモニターの意見を取り入れながら試行錯誤しながらすすめている。

<質疑>

後藤誠司委員	政策サポーター制度について公募と議員の推薦の割合はどの様になっているか。
清水議長	公募は少ない。1回目＝2人、2回目＝3人、3回目＝0人、4回目＝1人という状況。応募の仕方を難しくし、そのイメージがついてしまった。現在は改善しているが応募数は少ない。そのため議員から要請している。「20年後の飯綱の姿」「農業の活性化」の2点から人選しており、断られた経過はあまりない。それほど大変ではない。サポーターは議員と同数程度の15人程度。サポーターからの資料請求には議会事務局が対応をしている。
遠藤吉正委員	現在3千円の謝金を4千円とすることを検討中。 実は瀧野議員は第2期の政策サポーター、任期中に出産し、子育てをしながらサポーターの活動をした。 (議長より、モニター制度の方がいいと思いますよ、とのご意見あり)
瀧野副委員長	議会報編集調査特別委員会の委員数が7名とのことであるが、議会報の記事作成や編集などはどのようにしているか、事務局の関与はどの程度か。
清野議長	全部が委員の手づくりである。事務局は一切手伝わない。業者とのやりとりも全て議員。議会報が一番大変かもしれない。
遠藤吉正委員	発行責任者が議長なので、最後の校正はしっかり見る。
清野議長	当委員会は広報編集委員であり、広聴機能は所管していないが、広聴について研究課題として取り組んでいる。議会報告会の住民からの意見は、議会報ではどのように対処しているか。
清野議長	議会報と懇談会は別であると考え。懇談会（議会報告会）も不特定多数を対象にすると、いつも同じ人が、いつも文句言ってくる。それではダメで、部会ごとに分けると効率も良い。懇談会では、議会からは一番の課題を説明し、その際に出た意見は要望などに反映するものであり、議会報には載せない。懇談会を実施したことを議会報で伝えても、内容は載せない。懇談会が出た重要なことは一般質問になることもあり、議会報で、あえて取り扱うことはしていない。

佐藤忠孝委員	発行までの期間はどの程度かかるのか。
瀧野副委員長	約1ヶ月であり、配布日は市の広報と一緒にある。
小島雄一委員	議会改革のきっかけ、議会の責任に波及したところがすごいと感じた。どのような方法で勉強会をしたのか。
清野議長	住民の矛先が議会に来たというところ。議会がもっとしっかりやっていたらこんなことにならなかったという住民の意向。勉強会は先輩議員がたくさんいて、議会改革に否定的で当時の議長は本当に苦労した。何度も伝え、徐々に増えてくる人が増えてきた。 勉強会では、ガバナンスや議員必携、新聞などの切り抜きをみんなで持ち寄ってやった。 議会改革は町を分けるほどの大きな問題だったから進んだ。本当に今の議会がいいのか、という声が住民から出ている今、定数を減らすことは、議会を弱体化させる事。これ以上は絶対に減らせないと考えている。
小島雄一委員	政策サポーターを何度もお願いすることはあるのか。サポーターから議員になった方が、瀧野議員以外にも何人かおられるのか。
清野議長	サポーターの任期は1年。できるだけ多くの人になってもらうため、同じ人が2回はない。この制度が注目され、メディアの露出が多くなり広く知られたことで、住民が議会に必要なにされているという認識ができてきた。 現在の議員の中で、政策サポーターの出身が5人いる。 成り手不足の対策ではなく、議員のバックアップのための制度であったが、結果して議会への理解が深まり、立候補がしやすくなったか考える。
瀧野副委員長	同年代の議員がいなければ、議会は近くない存在だった。政策サポーターを引き受けた事で、自分も周りの同世代の友人に話しを広めて意見をもらうなど、議員活動のような環境が自然とできてきた。何かに突き動かされるように議員になったが、戦略的だったのかもかもしれない。
清野議長	戦略的な部分もあったかと思う。5人の議員は優秀。
渡部勇一議員	全会一致が原則との話であったが、町議会で党派制ではないと思うが、構成をお聞きしたい。全会一致が有り得るのか。
清野議長	共産党2、公明党1、あとは無所属。議会改革は、全会一致を原則として進めてきた。議論は徹底的にやっており、そのため他の自治体と比べ、全員協議会の開催は非常に多い。 党派の与野党については、なぜ、地方議会の中に与野党がいるのかと疑問視している。市長の思う壺ではないか。ダメなこと

清野議長	はダメと。議決とチェック、これだけである。議会の機能としていいのか。
渡部勇一議員	私も同感だ。無所属の中で意見を一致させるのも大変と思うが。
清野議長	野党とかでなく、住民のために良いか、悪いか。それだけ。提言は全会一致でしている。町長と切磋琢磨する議会であれということである。
渡部勇一議員	喜多方市、提言の部分がどうしていけばいいのか課題である。特別委員会を作ることを提案したが、ダメになったという経過もある。
清野議長	特別委員会は、全員ではない。全会一致の何が良いか、それは全員で議論するという。それが全員協議会。そこで、徹底的に議論をする。 議員の中には、住民との約束だからと押し通す意見もあるが、本当のところ議員の仕事をしてどうだったか、市民の考えが違っていたのではないのか、他に最も適切な方法があったのではないのか、それを正直に話すべきであり、議会改革の必要などころであると考える。

4 所感

○住民議会モニターが 50 名もいることが素晴らしい。人口約 11200 人であるから 223 人に一人である。この比率だと喜多方市は 215 名になり、議員一人で 8~9 名のモニターに議会だよりを毎回手渡すことになる。定期的に市民と議員が対話するきっかけづくりになっている。自前の議会基本条例をもとに、議員が年間活動計画を作成し、自己評価することで、議員活動の内容を市民に伝えようとしている姿が感じられる。喜多方市では実現が難しそうである。昨年 10 月改選の議員の政策サポーター出身者が 5 名もいるということで、市政に興味と疑問をもち、議会の理解が深まっている。議員活動が身近に感じられるようなサポーターと議会との近い距離感が感じられる。

○平成 20 年の第三セクターの経営破綻が、12000 人の町に与えた衝撃の大きさは想像に余りある。議会も当局の追及に血道をあげるだろう時に町民からの指摘があったとは言え、自らの責任を認めて議会の改革に取り組み半年で 30 回もの学習会を開催して、そのあり方を改めている。当局の追認の議会から二元代表制としての本来のあり方になったということに惜しみない称賛を送りたい。

政策サポーター制度や議会広報モニター制度など当市に是非導入したいと思う。

○「モニター制度」を導入、議員のいない地区からの選出・女性や若者を重視している。また、住民の多様な意見・要望・批判を議会改革に活かしている。議会だよりは、いかに伝え住民の声を聴きいかに議会に活かすのかが課題であると考えさせられた。また、「政策サポーター制度」を導入しているが、住民自治の根幹としての地方議会のあるべき姿について研修することができ、本市議会の目指すべきとなる研修であった。

○議会改革のきっかけが、合併後の第3セクターの破綻であったということで納得できた。政策サポーター制度は任期が1年で15人程度であるが、公募は少ないということで、本市に取り入れるにはまだ無理があるかなと感じた。議会モニターは50人程度であり、読んでくれる人を増やすのが目的のようだが、モニターからの意見返答も広報紙で行なっている。議会モニターの方は本市でも取り組めるのではないかと感じた。

○めざす議会像と改革課題について「町長と切磋琢磨する議会」「政策提言のできる議会」との事であったが、当市議会においてもその手法について調査研究すべきと考える。政策サポーター制度の検討も必要であると感じた。

○議員定数、報酬問題等、さらに市地域社会の変化と深刻な議員の成り手不足で議員に出馬する者がいないため苦勞しているなど、本市の今後の課題でもあるようだ。

【長野県佐久市】

1 視察日時及び場所

- (1)日時 平成30年11月8日(木) 午後1時00分～午後3時00分
(2)場所 佐久市議会棟 第2委員会室

2 対応者

佐久市議会議長 高橋 良衛 氏(あいさつ)
" 議員 広報広聴特別委員会 委員長 吉川 友子 氏
" " 副委員長 高柳 博行 氏
企画部 広報情報課 課長 山田 博之 氏
" " 広報広聴係長 藤巻 隆幸 氏
議会事務局 総務係 高見沢 香織 氏

3 視察内容(要点筆記)

(1)議会広報の紙面づくりについて

(説明: 広報広聴特別委員会委員長 吉川友子 氏、副委員長 高柳博行氏)

現在の形、2~3年前からであり、より読まれやすい議会広報を目指し、研修に出席するなどしている。編集方針は申し合わせ事項(P1参照)に定めている。

広報紙のフォーマットが決まっているので、そこを埋めるような形で編集作業をしている。表紙は公募で、本号からイラストも応募できるようにした。公募の写真では、季節が伴わないようなものも多い。

小学生インタビューは議員2人+事務局で対応していて、子供さんが掲載されると多くの市民が見てくださる。

<質疑>

遠藤吉正議員	広報の紙面づくりに広報広聴特別委員会14名全て関わっているのか。
吉川委員長	広報部門と広聴部門を分けた方がいいという案もあったが、14人全員で行っている。
遠藤吉正委員	現在の形になる2~3年前のきっかけは、具体的な市民からの意見などからか。
吉川委員長	委員のメンバーが変わり、きっかけになったのかもしれない。
佐藤忠孝委員	委員のメンバー構成は。
吉川委員長	副議長、各会派から数名いる。
後藤誠司議員	委員会は3回で間に合うか。少ないようにも感じるが。
吉川委員長	間に合う。初稿は2回目の委員会になる。
後藤誠司委員	文字間がぱらっとしているように見受けられるが、加減しているのか。

吉川委員長	あまり少ない場合は、追加して記事を作成してもらう。一般質問は以前は3人1ページであったが、今は2人1ページとし、余裕がある。
渡部勇一委員 吉川委員長	広聴機能をもう少し詳しくお聞きしたい。 議会報告会（意見交換会）を年1回8箇所で開催している。小学校へは議会を知ってもらうためインタビューを始めた。その他に、出前報告会を取り組みとしてはじめた。 議会報告会での市民の意見は所管委員会に下ろして、振り分け協議をしている。
渡部勇一委員	特集ページなどで、議会報告会の要望等への回答は返さないのか。
吉川委員長	その場で解決できるものはその場で回答するなどの対応をしている。広報紙での要望についての回答はしていない。
渡部勇一委員	市民からのご意見ご要望については返す必要があるのではないか。返答必要なのでは？
吉川委員長	現在、議会だよりモニター検討中。実現したら紙面にもものせていきたい。 議会報告会でいただいたご意見についてはHPで公表している。紙面で返すことは今後の課題としたい。
高柳副委員長	喜多方市ではどのようにしているのか、お聞きしたい。 議会報告会が広報広聴委員会の所管となってまだ2年目である。
上野利一郎委員 長	喜多方市においても課題である。現在は実施したことと、主な意見を掲載するにとどまっている。
小島雄一副委員 長	議会だよりモニター、どのように検討しているか。
吉川委員長	会派持ち帰り意見を求めているところであるが、15人前後のモニターを、できれば議員が来訪して集める。詳細は決まっていない。委員が14人なので、一人1名担当と考えた。できる範囲で取り組んでみる。
小島副委員長 吉川委員長	議会報告会の他には、広聴活動はどのようなものがあるのか。各種団体との意見交換会、街頭広報、スーパーの前で議員自らチラシ配りなどである。
小島副委員長 吉川委員長	小学生の取材について、あえて小学生を選ばれた理由は、素直に自分のことを言ってくれるのではないかなというところから。特に明確な理由があったわけではない。
上野委員長 吉川委員長	特集の取材は、時期的にいつごろから取り組まれるのか。今回はギリギリであったが、通常、発行の2ヶ月前には行っている。定例会の前に取材している。

上野委員長	特集の取材先は誰がいつ決めているのか。依頼文や、取材先への記事の確認などはどうか。
吉川委員長	それぞれ当番が決めているので、委員会ではじめて知ることも多い。団体への日程調整も委員が行っている。依頼文は正式には出しておらず、取材先への記事校正も行っていない。
遠藤吉正委員	議会だよりは全戸配布か、配布物は月1回か。
吉川委員長	自治会に加入している世帯へ全戸配布で、市の広報誌と一緒に配布される。
遠藤吉正委員	議会事務局の関わり方はどの程度か。
吉川委員長	事務的な部分は事務局がしている。印刷会社とのやり方、委員との調整など。中身については、議員が責任を持ってやっている。

(2)電子ブックの導入について

(説明：企画部広報情報課長 山田博之氏、広報広聴係長 藤巻隆幸氏)

市政10周年を機に電子ブックを導入した。それまでは、PDFで1ページずつ公開しており、担当者の事務も煩雑で、閲覧にもダウンロードするたび時間がかかるなどの問題もあった。

ホームページ作成業務委託をプロポーザルで決定し、委託業者によって電子ブックのエアーリブロを選定した。

各課でアカウント作成し、資料を非公開で格納し会議に活用するなどしている。課題は、階層に入り込まないと広報がどこにあるのかわからないことで、市民からの苦情もある。また、ペーパーレス機能を活かしきれていないということがある。

<質疑>

遠藤吉正委員	アクセス数など利用状況は。見やすくなったと思うが、そのような感想は届いているか。
藤巻係長	見やすくなったとの話は聞こえてこない。アクセス数については、広報だけで月2,000件程度。
遠藤吉正委員	市民への周知は。
藤巻係長	電子ブック導入の広報はしていないが、12月号から公式SNSにも掲載していくこと検討している。
遠藤吉正委員	議会だよりも利用されているが、議会の本会議の動画は載せないのか。
藤巻係長	本会議はケーブルテレビで放映しており、録画はホームページでも見ていただける。電子ブックでの録画の公開はしていな

い。

4 所感

○広聴と広報で14名の大所帯である。特集記事も3人の班別分担制にして事前に取材を終えているのは興味深い。

○議会広報の表紙の公募や小学生へのインタビューなどの企画は面白いと思う。公聴の取り組みや市民との意見交換会などは参考になる程度かなと思う。

○参考になったのは、特集記事については定例会前に取材しているとともに、会期中に第1回の委員会が開催され紙面構成について検討されていることである。次に、委員会開催が3回であるとともに会議時間が1時間程度と短く行われているが、必要な時間は確保しながらも、本委員会でもタブレットの導入により作業時間等については工夫すべきと考える。

○読まれやすい議会広報のために、表紙を公募し写真やイラストも使用したり、小学生のインタビューを掲載したりして努めていた。11月号の特集記事は写真も大きく、文字もバランス良く見やすかった。広報発行の議会広報広聴特別委員会が、3回で発行にこぎつけている点は驚きであり、注目したい。

○議会だより表紙公募について、検討価値があるかと考える。

○市議会だよりの表紙については市民に開かれた議会を目指し、議会への関心を高めるため、公募としている。この件については喜多方市の表紙の選考とは。議員26名中14名の委員では広聴委員も含むが多いではないかと感じた。